



AFRICA

写真提供：プラン・ジャパン



特集

国連ミレニアム開発目標 (MDGs) に 直接貢献する第一三共の挑戦

第一三共グループは、2015年ビジョンとしてGlobal Pharma Innovatorを掲げ、2010～2012年度の第2期中期経営計画において、CSR中期方針と5つの重点課題に積極的に取り組んでいます。重点課題の一つには、「国際的視野での医療アクセスの拡大」を掲げており、グローバル社会貢献活動として、国連ミレニアム開発目標 (MDGs) の達成に向けた貢献を行うことが、当社グループに求められる期待として受けとめています。



INDIA





国連ミレニアム開発目標(MDGs)のうち、 目標4～6は低い達成状況

国連ミレニアム開発目標(MDGs)とは、2000年9月の国連ミレニアム・サミットで採択された国連ミレニアム宣言と1990年代に開催された主要なサミットで採択された国際開発目標を統合し、一つの共通の枠組みとしてまとめられたものであり、2015年を達成期限として、次の8つの目標により構成されています。

- 目標1: 極度の貧困と飢餓の撲滅
- 目標2: 普遍的初等教育の達成
- 目標3: ジェンダー平等推進と女性の地位向上
- 目標4: 乳幼児死亡率の削減**
- 目標5: 妊産婦の健康の改善**
- 目標6: HIV/エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延防止**
- 目標7: 環境の持続可能性確保
- 目標8: 開発のためのグローバルなパートナーシップの推進

上記目標1～6に関しては、主要成果指標(KPI)を設けており、その主たる達成状況は以下のように、特に目標4～6に関して厳しい状況にあります。

●目標4: 乳幼児死亡率の削減

肺炎、下痢、新生児問題*1、マラリア、はしか、HIV/エイズという乳幼児の6大死因は、基礎的保健サービスの単純な改善や、予防接種などの対策で防ぐことが可能です。死亡する乳幼児の37%は、出生後から1ヵ月以内に命を失っているため、母子保健を改善することにより、数多くの新生児の命を救うことが期待できます。

●目標5: 妊産婦の健康の改善

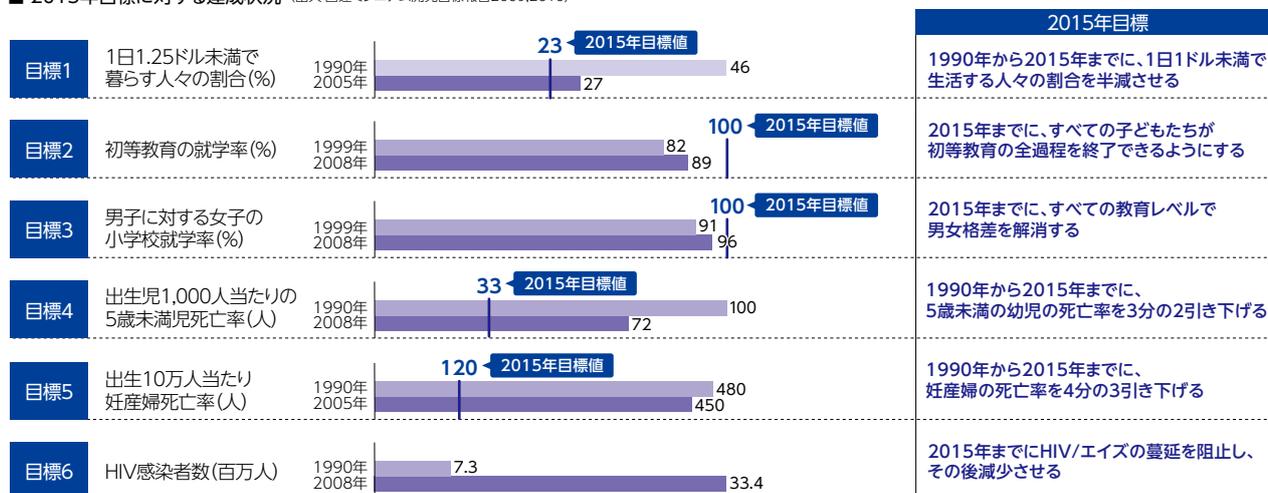
妊産婦の死者を大幅に減らすためには、適切な訓練を受けた医療従事者による出産立ち会いや、合併症が生じた場合に備えるための適切な設備と医療機関紹介制度の導入が欠かせません。また、産前ケアは妊婦と胎児双方の健康を保つための有効な手段であり、適切な家族計画も必要不可欠です。

●目標6: HIV/エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延防止

HIV/エイズ、マラリアなどの疾病に関する予防プログラムの改善により、新規感染者数にはいくつか地道な成果も得られていますが、治療を必要とする感染者への治療薬の供給が必要に追いついていないのが現状です。

上記目標4～6が、医療周辺にかかわる課題領域であり、当社が役割を果たしていくべき領域と認識しています。

■ 2015年目標に対する達成状況 (出典:国連ミレニアム開発目標報告2009,2010)



目標1～5のデータはそれぞれ開発途上地域の数字
目標6のHIV/エイズ、マラリアに関する目標は定性目標であるため、目標値は省いた

*1 出生後1ヵ月以内での早産・窒息・敗血症などによる死亡のこと



医療過疎地に有効な移動診療車

国連ミレニアム開発目標 (MDGs) への達成にあたっては、医療へのアクセスの改善が必要不可欠です。しかし、多くの医療施設は都市部周辺に集中しており、特に道路や鉄道といった暮らしを支えるインフラが整っていない国ではアクセスが容易ではなく、大きな課題となっています。そのような、特に医療過疎地に暮らす人々にとっては、移動診療車は大きな助けであり、今後の医療を支える希望となっています。

移動診療車には、基本的な医療設備があり、機動性を最大限に活かし、医療施設から離れた地域においても医療およびプライマリ・ヘルス・ケア^{*1}を提供し、医療を受ける機会を増やすことでより多くの命を救うことが可能となります。第一三共グループでは、第一三共INC. (アメリカ)やランバクシー社 (インド) で既に移動診療車による医療サービスで多くの実績を残しています。



^{*1} 実践的で、科学的に有効で、社会に受容される手段と技術に基づいた、欠くことのできない保健活動



インド・ハリヤーナー州での活動

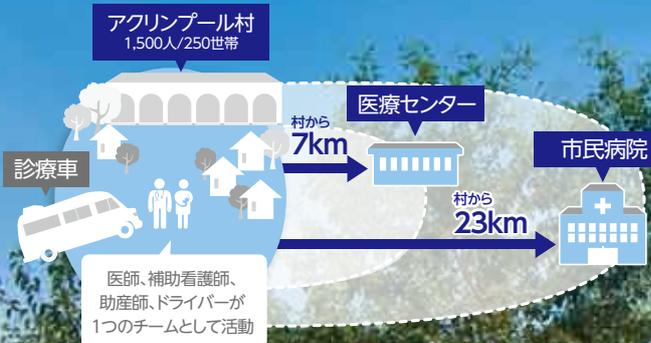
インドでは、急激な経済発展を遂げる一方、さまざまな社会的な課題も多く、収入や社会・地域によって医療格差が大きいのが現状です。

当社のグループ会社であるランバクシー社は、Ranbaxy Rural Development Trust (RRDT) を設立し、1979年に地域社会での保健活動を開始しました。その後、1994年に名称をRanbaxy Community Health Care Society (RCHS) に変更し、現在は16台の移動診療車でインド国内の僻地の村において、おもに妊婦や新生児約55万人を対象にさまざまな医療サービスを提供しています。

2004年、RCHSはハリヤーナー州アクリンプール村において、下記のような活動を開始しました。

2週間に一度のペースで定期的にさまざまな地域を巡回

持病の治療、薬の無償提供、重篤な患者の訪問、保健衛生の啓発活動を実施





VOICE

移動診療車は頼りになる存在です

村からは病院が遠いことから、移動診療車が毎週来てくれてとても助かっています。医療設備の整った環境の中、信頼できる先生から診察を受けたり、新生児のケアや母乳の重要性、栄養についてなど、多くのことを教えてもらっています。診療車にはとても感謝していますし、できれば毎日来てほしいくらいです。これからも頼りにしています。



乳児を抱える母親

VOICE

一人でも多くの患者さんの健康に役立つことを望んでいます

この活動に関わって9年目になりますが、貧富の差や社会的な背景を気にせず、誰もが気軽に診療を受けられるRCHSの移動診療車は、地域にとってなくてはならない存在と自負しています。



Dr. Nisha Bhat

妊産婦や新生児の死亡率は大幅に低下しており、医師としてとても幸せで誇りに思います。これからもっと多くの診療車や医師、仲間が増え、一人でも多くの患者さんの健康に役立てることを強く望んでいます。

都市家族福祉センター(デリー)での活動

ランバクシー社は、政府の支援のもと、1990年にデリーに設立された「都市家族福祉センター」を運営しています。5万人が暮らすこの地域において、おもに女性や子どもを対象とした無料健康診断、家族計画支援、予防接種、教育活動を行っています。医師1名、補助看護師3名など計6名の熱意を持ったスタッフにより運営され、さまざまな医療サービスを提供しています。2000年と2010年を比較すると、この地域の避妊普及率は55.5% (適齢期の夫婦8,575組のうち4,767組が利用) から82.0% (同12,105組のうち9,935組が利用) に向上しました。また同期間において、乳児や妊産婦死亡率は大きく改善されました。このような影響により、同センターは地域の将来に大きく貢献しています。



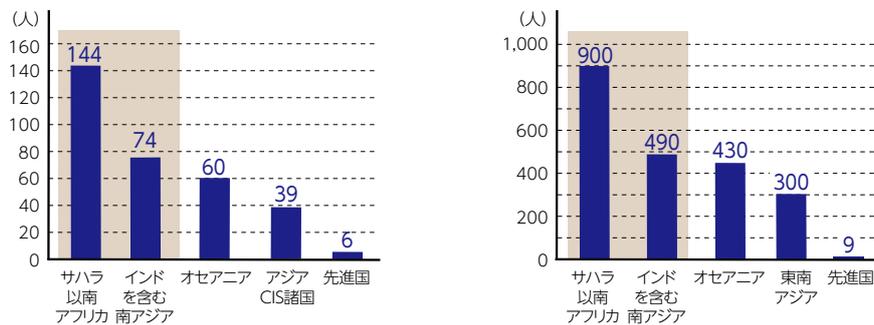


第一三共主導によるグローバル社会貢献活動

第一三共は、第2期中期経営計画においてCSR中期方針と5つの重点課題を設定しており、重点課題の一つに「国際的視野での医療アクセスの拡大」を掲げています。Global Pharma Innovatorの実現に向け、CSRにおいてもグローバル社会貢献の方向性を明確にしています。

グローバル社会貢献の展開にあたって、当社グループのランバクシー社がもつノウハウやリソースを活用し、移動診療サービスを展開することが、第一三共らしい社会貢献活動になると考えています。

■ 新生児出生1,000人当たり5歳未満児死亡率(2008年) (出典:国連ミレニアム開発目標報告2010) ■ 出生10万人当たり妊産婦死亡率(2005年) (出典:国連ミレニアム開発目標報告2010)



「サハラ以南アフリカ」と「インドを含む南アジア」を社会貢献活動を行う地域として特定



カメルーン、タンザニアにおける支援

アフリカにおいては、MDGsの達成状況が悪く、かつグループ会社であるランバクシー社が事業を展開している国を検討した結果、カメルーンとタンザニアを、現地のNGOの協力を得て活動を展開していく国として特定しました。

- ▶ **課題**
 目標4 乳幼児死亡率の削減
 目標5 妊産婦の健康の改善
- ▶ **成果指標**
 はしかの予防接種を受けた1歳児の割合
 妊産婦健診を受ける妊婦の割合
- ▶ **成果目標(5年間)**
 予防接種者数 約23万人
 妊産婦検診数 約14.4万人
- ▶ **アプローチ**
 移動診療サービス
 ・基礎的医療、ワクチンの提供、妊産婦検診
 ・医療に関する情報提供、意識啓発
- ▶ **活動期間**
 2011～2015年
- ▶ **パートナー**
 国際NGOプラン
 (アジア・アフリカ・中南米の50カ国で活動を展開するNGO)



写真提供：プラン・ジャパン

VOICE

一人でも多くの人々が基本的な保健サービスを受けられることを望んでいます。

第一三共様から、車両を利用した移動診療サービスができないかという提案をいただいたことをきっかけに、特に遠隔地での医療保健サービスが行き届いていないタンザニアとカメルーンで活動を実施することになりました。両国は、世界の中でも最も乳幼児・妊産婦死亡率の高い国の一つであるため、低コストで地域中に行き渡る有効な医療サービスとして、今回の移動診療プロジェクトに対しては地元からも大きな期待があります。企業が持つリソースと、私たちが持つノウハウがうまく融合し、これからの5年間で目に見える大きな成果を残していきたいと強く願っています。



公益財団法人プラン・ジャパン 事務局長 佐藤 活朗様



インド マディア・プラデーシュ州への支援

全世界の5歳未満児死亡人口の約20%を占めるのはインドであり、国内においても特に、乳幼児や妊産婦の健康において課題を抱えている地域の一つである、マディア・プラデーシュ州デワス地区を活動地域として特定しました。この地区にはランバクシー社の製薬工場もあり、地元住民からの強い要望をいただいていることも受け、新たなプロジェクト開始に至ったものです。全体的な主導を第一三共、行政や病院などの調整やサポートをランバクシー社、活動の執行やその管理をRCHSが行う3者の協働により、当該地区に新たに2台の移動診療車を追加し、医療サービス強化を進めていきます。

2011年5月、プロジェクト関係者がインド中央部にあるこの地を訪問し、当該地域の行政官、市民病院のチーフメディカルオフィサー、自治会長、地域住民の健康をさまざまに支援する社会保健活動家などと面談しました。僻地での医師確保の難しさ、病院の不足や院内の設備不足、地域の水問題について話し合ったほか、今回のプロジェクトへの多大な期待や全面的な協力を得られました。





ダイアログ

第一三共がインドで国連ミレニアム開発目標への貢献を行う意義について

2011年6月1日、インドのランバクシー本社にて、プロジェクト責任者によるダイアログを実施しました。

司会

国連がグローバルな課題の一つとして定めた国連ミレニアム開発目標 (MDGs) にある「乳幼児死亡率の削減」、「妊産婦の健康の改善」、「HIV/エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延防止」へ貢献する活動を、インドにおいて第一三共が自ら展開する意義について、今一度、皆さまとのダイアログを通じて整理していきたいと思えます。

眞鍋

このたび、MDGsのうち医療に関係する3つのテーマ解決に向け、インドにおいて当社が貢献させていただく機会を頂戴できたことに、製薬企業としての大なる喜びと、困難な課題に立ち向かうにあたっての高揚を感じているところです。日本は、国民が自らの健康を維持できる環境がかなり整っている先進国といえるでしょう。しかし世界全体では今でも、100人の赤ちゃんが5歳の誕生日を迎えるまでに8人以上も亡くなってしまっている国が

多数存在しているという直視しがたい現実があります。インドは現在、そのような国の一つと認識しています。



グローバル規模で
社会貢献に取り組んでいく

眞鍋 淳

執行役員
グループ人事担当
グループCSR担当

Adige

第一三共グループにおいてインドに本社を置くランバクシー社は、1994年に社会的責任を果たすためRCHSを

設立、これまでも移動診療車による医療提供など、パンジャブ州やデリー市などを中心とした貢献を積極的に行い、顕著な実績を残してきました。

しかしながらインドは、総人口が世界人口の約1/6を占める約12億人超、国土面積は日本の9倍程度にもなる国です。ランバクシー社のみではおのずと貢献の規模に限界があります。

Jalali

インドは、乳幼児死亡者や妊産婦死亡者が全世界で最も多い国の一つであり、医療へのアクセスに関しても課題が山積しています。

インド最大の製薬企業ランバクシー社をグループに迎え入れた第一三共に向けた期待は、インドの一国民としても大きなものがあります。

MDGs達成に向け、
それぞれの強みを
発揮していく



Rajinder Jalali

Member of the Governing Council of RCHS and Vice President, Medical Affairs & Clinical Research and Head, Global Pharmacovigilance, Ranbaxy Laboratories Limited

Bakshi

私たちの行っているプロジェクトの特長は、ただ薬を配るのではなく、将来的には地域で自立した医療制度が確立できるよう、医療や健康に関する包括的な地域住民への教育にも力を入れているところにあります。そのためには、政府や行政との関わりは非常に重要だと実感しています。



眞鍋

これからRCHSのご協力を受けながら、インド中部に位置するマディア・プラデーシュ州にて移動診療などの展開を開始したいと考えています。まずは11月に移動診療車2台を投入、貢献開始初年度で、約10万人が暮らす100の村の健康改善に貢献していくことを目標とします。

司会

第一三共がインドで貢献する地域として定めたマディア・プラデーシュ州とは、どのような地域なのでしょうか。

Bakshi

マディア・プラデーシュ州はインド国内でも特に、乳幼児死亡率や妊産婦死亡率が高く、また医療・保健施設へのアクセスが非常に困難な地域の一つです。ランバクシー社は現在、RCHSとともにインド北部のパンジャブ地方周辺において保健活動を展開していますが、地域格差を是正するため行動したいと考えています。



地域住民への教育にも力を入れている

Ranbir Bakshi

Chief Medical Officer, RCHS

Adige

マディア・プラデーシュ州には、ランバクシー社の製薬工場があります。地域行政の方々からは、従前から移動

診療への強い要望をいただいていることもあり、日頃お世話になっている工場周辺の地域への社会的責任を果たすため、第一三共が貢献できる余地の多い地域だと考えています。

お世話になっている工場周辺への社会的責任を果たしていきたい

Ramesh L. Adige

President, Corporate Affairs & Global Corporate Communications, Ranbaxy Laboratories Limited



Jalali

これから広大なインドの地で、第一三共、ランバクシー、RCHSがそれぞれの強みを発揮しながらMDGs達成に向けた取り組みを推進していくことによって、具体的な成果が表れることを目指していきたいと思います。

眞鍋

新興国の製薬企業との協業を志向した製薬企業のある方として、日本でその先鞭をつけたのは当社であると認識しています。製薬企業の社会貢献はとすると本社所在の国内限定の取り組みとなりがちですが、グローバル規模での貢献についてもしっかりとその役割を果たす、日本初の製薬企業として認知されるよう、当社としてインドにおいて精一杯頑張っていきたいと思っています。また、アフリカのカメルーン、タンザニアにおいても同様なプロジェクトを進行させています。今後ともご協力よろしくお願ひします。